

平成25年度 公共事業再評価調査

(区分) 国補・県単

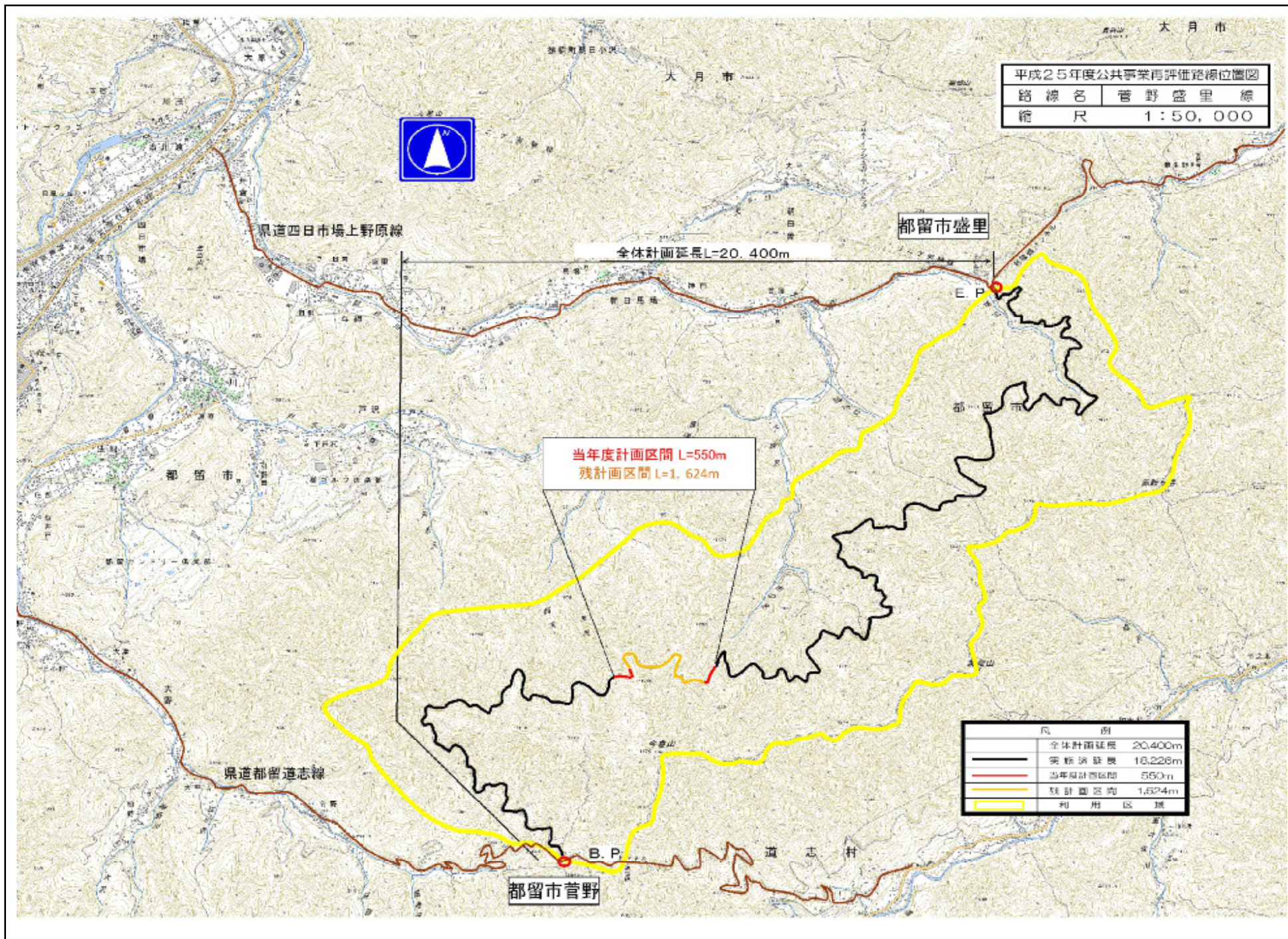
1. 再評価調査

事業名	林道事業 [森林基幹道開設事業(国補)]		事業箇所	都留市	地区名	菅野盛里線	事業主体	山梨県
	当初計画	現計画	今回見直し予定	⑤再評価時の評価状況 (平成20年度再々々評価時) 森林を適正に管理し、森林の持つ多面的な機能を発揮させるための骨格的な林道であり、現在ほぼ計画どおりの進捗で進捗している。また、今後も順調に事業が進捗すると見込まれることから、更なるコスト縮減と時間管理を徹底し、計画年度までの完成に努められたい。				
計画期間	S62~H20	S62~H27	—					
総事業費	7,000百万円	—	—					
(1) 事業の概要								
①事業目的及び効果 本路線は、都留市大野と、都留市朝日曾雌を結ぶ連絡林道であり、路網密度の低い菜畑山北面の大旅川・戸沢川・菅野川流域の広大な森林を管理経営する森林基幹道である。 利用区域1,539haのうちスギ、ヒノキ等の人工林が約65%あり、これらの森林を適正に管理し、資源を循環利用する木材生産に加え、国土保全、水源かん養、保健休養等の森林の多面的機能を発揮させるための基盤となる骨格的な林道である。				(2) 評価項目 [事業を巡る社会経済情勢等の変化] ①地域・住民の意向状況 近年は森林に対して、木材生産や国土保全、水源かん養はもとより、自然とのふれあいの場としての機能も期待されている。地域の豊かな森林を活用した林業経営の推進、山村地域の振興のため、当林道整備は不可欠であると要望されている。(都留市長の意見) ②産業・経済情勢 木材価格の低迷など林業の採算性の低下により、生産者の意欲は減退している。県産材を低コストで生産し、安定的に供給するための取り組みが必要となっている。 ③国等の方針変更 ・森林・林業基本計画 国は平成23年7月に「森林・林業基本計画」を策定し、10年後の木材自給率50%以上を実現するため、路網整備の加速化などにより、林業の持続的かつ健全な発展を実現することとしている。 ④上位計画・関連事業計画等の変更 ・山梨東部地域森林計画(平成21~30年度) ・県有林管理計画(平成23~32年度) ・やまなし森林・林業再生ビジョン(平成24~33年度) ・山梨県林内路網整備計画(平成23~35年度)				
②事業概要 森林基幹道 計画延長 20,400m 幅員 5.0m 利用区域面積 1,539ha 森林資源蓄積量 94,604m ³				⑤自然環境条件等の変化 なし。 ⑥その他 なし。				
③全体計画								
	平成24年度まで	平成25年度 (評価実施年度)	平成26年度以降					
工事内容	林道開設 18,226m	林道開設 550m	林道開設 1,624m					
事業費	5,958百万円	170百万円	872百万円					
④特記事項 県道都留道志線と県道四日市場上野原線を連絡することにより広域的な地域間交通の利便性の向上や災害時の迂回路など、山村の地域振興、活性化、災害対策に寄与する。				(3) 評価項目 [再評価時点の費用対効果分析] ・事業採択時計画における事業全体B/C(昭和62年度) 未算出 ・再評価時計画における事業全体B/C(平成10年度) 未算出 ・再々評価時計画における事業全体B/C(平成15年度) 1.08 ・再々々評価時計画における事業全体B/C(平成20年度) 1.25 ・再々々々評価時計画における事業全体B/C(平成25年度) 1.12 林野公共事業における事前評価マニュアルにより算出				

2. 再評価調書

<p>(4) 評価項目 [事業の進捗状況及び見込み]</p> <p>①計画変更等の概要 施工箇所の地形が急峻で、地質も脆弱な区間があり、計画どおりの事業進捗とならなかったため、平成15年度に計画期間の延長を行った。 当初：計画期間 昭和62年度～平成20年度 変更：計画期間 昭和62年度～平成27年度</p> <p>②施行済みの事業内容 全体計画のとおり。</p> <p>③進捗率</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td></td> <td>*平成20年度</td> <td>平成21年度</td> <td>平成22年度</td> <td>平成23年度</td> <td>平成24年度</td> </tr> <tr> <td>計 画</td> <td>70</td> <td>74</td> <td>79</td> <td>83</td> <td>87</td> </tr> <tr> <td>実 績</td> <td>70</td> <td>74</td> <td>80</td> <td>85</td> <td>89</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td></td> <td>平成25年度</td> <td>平成26年度</td> <td>平成27年度</td> <td></td> <td>算出方法</td> </tr> <tr> <td>計 画</td> <td>91</td> <td>96</td> <td>100</td> <td></td> <td>計画延長/総延長×100</td> </tr> <tr> <td>実 績</td> <td>92</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>実施延長/総延長×100</td> </tr> </table> <p>*再々々評価実施年度 H25の実績は見込み</p> <p>④事業の進捗が順調でない理由 計画のとおり進捗。</p>		*平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	計 画	70	74	79	83	87	実 績	70	74	80	85	89		平成25年度	平成26年度	平成27年度		算出方法	計 画	91	96	100		計画延長/総延長×100	実 績	92				実施延長/総延長×100	<p>⑤今後の事業執行上の問題点 なし。</p> <p>⑥今後の事業の進捗の見込み 予定どおり、平成27年度に完了する見込みである。</p> <p>⑦事業計画の変更の見込み・可能性 なし。</p> <p>(5) 評価項目 [環境への配慮] 地形の改変を極力少なくする路線計画とし、切土・盛土法面については在来種を主体とした確実な緑化による保全を図り、良好な自然環境の維持及び景観に配慮した計画となっている。</p> <p>(6) 評価項目 [コスト縮減の可能性] 地形に合った平面・縦断線形をとり、法面、路側構造物等を縮小する。切盛土量の収支均衡を図り、土工事のコストを縮減する。また、急峻な地形においては路肩の縮減を行う。</p> <p>(7) 評価項目 [代替案立案の可能性] 事業の目的を達成するためには当路線の開設以外に方策はない。</p> <p>(8) 所管部の今後の方針 継続・見直し継続・その他 () (理由) 計画どおりの進捗となっていることから、今後も時間管理の徹底やコスト縮減に努めながら事業を継続する。</p>
	*平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度																																
計 画	70	74	79	83	87																																
実 績	70	74	80	85	89																																
	平成25年度	平成26年度	平成27年度		算出方法																																
計 画	91	96	100		計画延長/総延長×100																																
実 績	92				実施延長/総延長×100																																

3. 添付資料シート(1)



現況等写真



計画地遠景



林道沿線における森林整備の状況



林道沿線における森林整備の状況



林道沿線における収獲木材の搬出状況